

## 「子どもの歯ぐきの病気」

岡山大学病院小児歯科 仲野道代

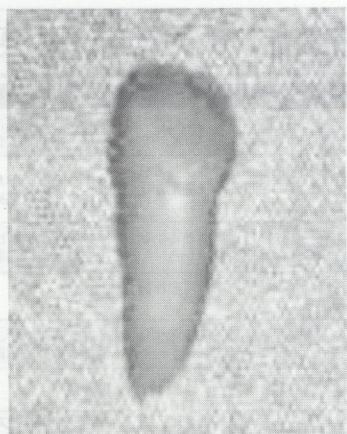
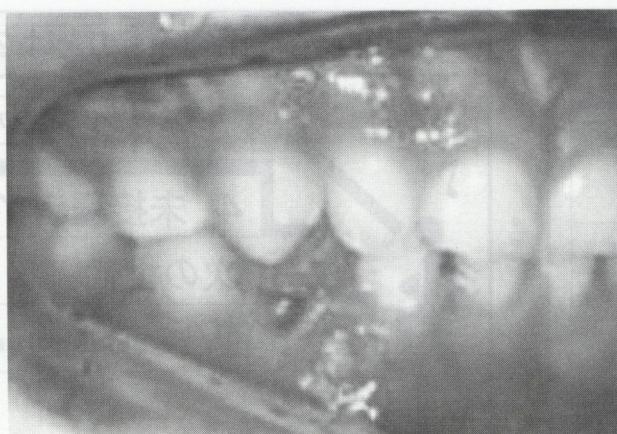
歯ぐきの病気は専門的には「歯周病」と呼ばれており、歯肉炎と歯周炎に大きく分けられます。

歯肉炎は、デンタルプラーク（歯垢）が原因で起こる不潔性歯肉炎と思春期のホルモンの原因といわれる思春期性歯肉炎、栄養障害による歯肉炎など体の状態によって起こるものがあります。小児期における歯周病のほとんどが歯肉炎であり、その中で一番多くみられる不潔性歯肉炎はデンタルプラークの除去によって比較的治りも早いものです。しかしながら、現在では歯肉炎の発症率は3歳で33%，6歳で42%とされ、意外と多くの小児に起こっています。

一方で、歯周炎は一般的に「歯槽膿漏」とも呼ばれており、歯を支えている骨がなくなることで歯がぐらぐらしてくるものです。小児期に発症することは稀ですが、発症した場合には重度なものが多いため注意が必要です。小児期に起こる歯周炎には侵襲性歯周炎というものがあります。歯周病は歯周病原性細菌の感染によって起こるものですが、感染ルートについては未だ不明です。歯周病になると歯を支える骨の急激な破壊が起こり、その進行も早いのが特徴です。

また、歯周炎は全身の病気によって起こることもありますので、生え変わりの時期よりも早期に乳歯が脱落する場合には全身の病気を疑う必要性もあります。

今回は、子どもに起こる歯ぐきの病気全般についてお話をさせていただきたいと思います。



侵襲性歯周炎による子どもの歯の脱落（3歳時）

歯を支えている骨の急激な吸収によってぐらぐらした後に最終的に脱落した子どもの歯